

感染症情報 7月25日～31日

府下小児科201医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	854例(堺市 37例)
②ヘルパンギーナ	630例(堺市 27例)
③おたふくかぜ	445例(堺市 34例)
④溶連菌感染症	344例(堺市 19例)
⑤突発性発疹	120例(堺市 5例)

が報告された。

府下全体としての感染症報告数は前週より0.5%減の2,742例であった。第1位は前週比14%増で感染性胃腸炎となった。ヘルパンギーナが前週比24%減で、第2位にランクダウンした。以下、第3位がおたふくかぜ、第4位が溶連菌感染症であった。

第3位のおたふくかぜが府下全体では前週比11%増、堺市では前週の26例から今回34例で(31%増)、夏休み前の感染者が発症しているようである。第4位の溶連菌感染症は府下全体では前週と同例数、堺市では前週の14例から今回19例で36%増であった。ランク外ではあるが、府下ではマイコプラズマ肺炎の報告が4週連続で20例を超えている。

はしか、風疹の報告はなかった。